

ハイブリッド環境下の大学図書館における学術情報サービスの構築

渡邊, 由紀子
九州大学附属図書館

<https://doi.org/10.15017/17922>

出版情報：九州大学, 2009, 博士（学術）, 論文博士
バージョン：
権利関係：



参考文献

- 1) 有川節夫. 国立大学図書館の課題と解決の試み. 大学図書館研究. 2004, no. 70, p. 1-8.
- 2) 大学基準協会. 大学図書館基準(昭和27年6月決定, 昭和57年5月改正). 1952, 1982.
- 3) 学術審議会. "大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について(建議) (平成8年7月29日)". <http://wwwsoc.nii.ac.jp/janul/j/documents/mext/kengi.html>, (参照 2009-08-31).
- 4) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会. "学術情報基盤の今後の在り方について(報告) (平成18年3月23日)". http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/06041015.htm, (参照 2009-08-31).
- 5) Association of College & Research Libraries (ACRL). "Changing Roles of Academic and Research Libraries". <http://www.ala.org/ala/mgrps/divs/acrl/issues/future/changingroles.cfm>, (参照 2009-08-31).
- 6) 土屋俊(研究代表者). 電子情報環境下における大学図書館機能の再検討. 千葉, 千葉大学, 2007, 210p. (科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書; 平成16-18年度).
- 7) 渡邊由紀子. アメリカの大学図書館および公共図書館における電子情報サービスとその導入. 大学図書館研究. 2005, no. 73, p. 57-68.
- 8) 渡邊由紀子. 電子ジャーナルの導入とその影響について: 九州大学の事例. 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 6, p. 265-270.
- 9) 倉田敬子. 学術情報流通とオープンアクセス. 東京, 勁草書房, 2007, 196p.

- 10) 文部科学省 研究振興局 情報課 学術基盤整備室. "平成 17 年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告(概要)".
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2009/05/27/1245749_1.pdf, (参照 2009-08-31).
- 11) 文部科学省 研究振興局 情報課 学術基盤整備室. "平成 19 年度「学術情報基盤実態調査」の結果報告(概要)".
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2009/04/10/1260269_1.pdf, (参照 2009-08-31).
- 12) O'Hara, L. H. Providing access to electronic journals in academic libraries: A general survey. *Serials Librarian*. 2007, vol. 51, no. 3-4, p. 119-128.
- 13) O'Hara, L. H. Providing access to e-journals: An annotated bibliography. *Serials Librarian*. 2007, vol. 51, no. 3-4, p. 129-155.
- 14) Ferguson, C. L. et al. Finding the Perfect E-Journal Access Solution ... the Hard Way. *Technical services quarterly*. 2006, vol. 23, no. 4, p. 27-50.
- 15) 黒澤公人, 相徳真理. 図書館 WebOPAC を活用した電子情報の提供. *情報の科学と技術*. 2002, vol. 52, no. 2, p. 73-78.
- 16) 茂出木理子. 東京大学における新しい情報サービスの戦略と展開 : 利用者が電子図書館に求めるもの. *情報の科学と技術*. 2002, vol. 52, no. 1, p. 47-52.
- 17) 小林晴子, 坪内政義. 電子ジャーナルへのアクセスルート : 愛知医科大学での調査. *医学図書館*. 2005, vol. 52, no. 4, p. 369-374.
- 18) Serials Solutions. "Serials Solutions".
<http://www.serialssolutions.com/index.html>, (参照 2009-08-31).

- 19) National Information Standards Organization (NISO). "ANSI/NISO Z39.88-2004 : The OpenURL Framework for Context-Sensitive Services".
<http://www.niso.org/standards/z39-88-2004/>, (参照 2009-08-31).
- 20) 増田豊. OpenURL と S・F・X. カレントアウェアネス. 2002, no. 274, p. 17-20.
- 21) 増田豊. 学術リンクング : S・F・X と OpenURL. 情報管理. 2002, vol. 45, no. 9, p. 613-620.
- 22) Grogg, J. E. Land of linking. *Serials Librarian*. 2005, vol. 49, no. 3, p. 177-185.
- 23) Ex Libris. "Ex Libris". <http://www.exlibris-usa.com/>, (参照 2009-08-31).
- 24) 増田豊. S・F・X の現状. オンライン検索. 2005, vol. 26, no. 3, p. 106-117.
- 25) 衣笠美穂. 電子ジャーナルアクセス管理総合サービス「Serials Solutions(シリアルズソリューションズ)」。 オンライン検索. 2005, vol. 26, no. 3, p. 77-86.
- 26) 小島陽介. 電子ジャーナルへのアクセスを管理する図書館用総合サービス. 情報管理. 2005, vol. 47, no. 10, p. 708-710.
- 27) 細井宏朗. スエッツワイズ・リンカー. オンライン検索. 2005, vol. 26, no. 3, p. 96-105.
- 28) 設楽真理子. 次世代リンクシステム : Ovid LinkSolver. 薬学図書館. 2004, vol. 49, no. 2, p. 110-119.
- 29) 今野穂. 電子コンテンツ管理における札幌医科大学附属図書館の取り組み : MetaLib/SFX 導入経験を中心に. 医学図書館. 2004, vol. 51, no. 3, p. 254-260.
- 30) 今野穂. 札幌医科大学附属図書館における電子ジャーナルの管理と運用 : 学術ポータルシステム MetaLib/SFX による One Stop Shop の試み. 大学図書館問題研究会誌. 2004, no. 26, p. 19-30.

- 31) USMAI Consortium of Libraries. "USMAI (University System of Maryland and Affiliated Institutions) Consortium of Libraries". <http://usmai.umd.edu/>, (参照 2009-08-31).
- 32) Washington Research Library Consortium. "Washington Research Library Consortium (WRLC)". <http://www.wrlc.org/>, (参照 2009-08-31).
- 33) Lindahl, D., Reeb, B. "Find Articles : Fourth generation design for federated searching at the University of Rochester".
<http://docushare.lib.rochester.edu/docushare/dsweb/View/Collection-18>, (参照 2009-08-31).
- 34) Bowen, J. et al. Serial Failure. Charleston Advisor. 2004, vol. 5, no. 3, p. 48-50.
- 35) 田邊稔, 山田雅子. 慶應義塾大学における電子ジャーナル管理の現状と展望 : EJ アクセシビリティを中心として. 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 6, p. 257-264.
- 36) 加藤信哉. 総論 : 電子ジャーナルの現状. 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 6, p. 242-247.
- 37) 加藤信哉. 電子ジャーナルのビッグディールが大学図書館へ及ぼす経済的影響について. カレントアウェアネス. 2006, no. 287, p. 10-13.
- 38) 細野公男. 図書館コンソーシアムの現状とその課題. 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 3, p. 108-113.
- 39) MOBIUS. "MOBIUS (Missouri Bibliographic Information User System) Consortium". <http://mobius.missouri.edu/>, (参照 2009-08-31).
- 40) Maryland Digital Library. "Maryland Digital Library (MDL)".
<http://md-diglib.org/index.html>, (参照 2009-08-31).

- 41) 国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォース. "国立大学図書館協議会電子ジャーナル・タスクフォース活動報告(平成 16 年 3 月)".
http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/ej/katsudo_report.pdf, (参照 2009-08-31).
- 42) 伊藤義人. 電子ジャーナルコンソーシアム形成と今後の問題点について : 国立大学図書館協会電子ジャーナルタスクフォースの活動. 情報管理. 2005, vol. 47, no. 12, p. 786-795.
- 43) 山田雅子. 電子ジャーナル管理 2005-2006 年の動き : 電子資源管理の一元化をめざして. Medianet. 2006, no. 13, p. 26-30.
- 44) 尾城孝一ほか. 電子ジャーナルをめぐる話題. 千葉医学雑誌. 2005, vol. 81, no. 2, p. 61-68.
- 45) COUNTER. "COUNTER (Counting Online Usage of Networked Electronic Resources)". <http://www.projectcounter.org/index.html>, (参照 2009-08-31).
- 46) 島田貴史. 海外レポート 多倫多(トロント)大学図書館探訪記 : ローカルな図書館のグローバル・スタンダード. Medianet. 2006, no. 13, p. 56-59.
- 47) 島田貴史. 大学図書館員からみた図書館ポータル. 情報の科学と技術. 2007, vol. 57, no. 9, p. 423-428.
- 48) 諸富秀人. 法人化後の図書館運営について. 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 12, p. 522-527.
- 49) 国立国会図書館関西館図書館協力課. 米国の図書館事情 2007 : 2006 年度国立国会図書館調査研究報告書. 東京, 日本図書館協会, 2008, ix, 365p.
- 50) 竺覚暁. サブジェクトライブラリアン(Subject Librarian:SL)システムとは何か. 専門図書館. 1999, no. 178, p. 25-29.

- 51) 飯野弘之, 竺覚暁. サブジェクトライブラリアンの重要性. 情報管理. 1999, vol. 41, no. 10, p. 766-779.
- 52) 森田歌子. 図書館は教育・研究の中核機能を担う機関！ その中枢のサブジェクト・ライブラリアン制度とは 金沢工業大学ライブラリーセンター 鹿田正昭 SL 室長に伺った. 情報管理. 2008, vol. 51, no. 6, p. 418-419.
- 53) 呑海沙織. 大学図書館におけるサブジェクト・ライブラリアンの可能性. 情報の科学と技術. 2004, vol. 54, no. 4, p. 190-197.
- 54) 薬師院はるみ. サブジェクトライブラリアンとは何か：その導入がもたらすもの. 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 9, p. 362-368.
- 55) 進藤達郎. 図書館員のスキルアップとサブジェクト・ライブラリアン：大学図書館員にとっての専門性. 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 9, p. 394-397.
- 56) 櫻田忠衛. ドキュメンタリストの役割と課題：経済資料協議会の業績からサブジェクトライブラリアンを考える. 経済資料研究. 2007, no. 37, p. 35-45.
- 57) 三輪由美子. システム・ライブラリアン：求められる図書館員像の一つとして. カレントアウェアネス. 1999, no. 243, p. 8.
- 58) 田邊稔. システムライブラリアンの現状と今後：イケてる図書館員を目指して. 情報の科学と技術. 2001, vol. 51, no. 4, p. 213-220.
- 59) 宇陀則彦. システムライブラリアンをめぐる状況と課題. 情報の科学と技術. 2006, vol. 56, no. 4, p. 150-154.
- 60) 中尾康朗, 永井善一. サービス指向環境下におけるシステムライブラリアンの役割とスキル. 情報の科学と技術. 2006, vol. 56, no. 4, p. 155-160.
- 61) 竹内比呂也. デジタルコンテンツの彼方に図書館の姿を求めて. 情報の科学と技術. 2007, vol. 57, no. 9, p. 418-422.

- 62) 長坂みどり. 国立大学の法人化と図書館職員. 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 12, p. 534-540.
- 63) 大埜浩一. 近畿イニシアの能力開発活動 : 地域共同事業化による充実と補完. 大学図書館研究. 2006, no. 78, p. 1-9.
- 64) 岡部幸祐. 大学図書館職員長期研修の現状と課題. 大学図書館研究. 2006, no. 78, p. 10-21.
- 65) 市村櫻子. 東京大学附属図書館 図書館スタッフ研修プログラム「Resources Management Program」 : Think together! 附属図書館を協同で構築する. 大学図書館研究. 2006, no. 78, p. 32-39.
- 66) 加藤好郎. 専門職としての大学図書館員の現状と将来. 現代の図書館. 2001, vol. 39, no. 1, p. 38-44.
- 67) 加藤好郎. 慶應義塾図書館が 21 世紀に目指すもの : 専門職としての図書館員. 大学図書館研究. 2001, no. 60, p. 24-28.
- 68) 加藤好郎. 慶應義塾図書館 : 大学図書館における専門職制度導入の必要性. 情報管理. 2002, vol. 45, no. 3, p. 202-205.
- 69) 加藤好郎. 専門職としての図書館員育成計画. Medianet. 2003, no. 10, p. 40-41.
- 70) 加藤好郎. 大学図書館における専門職の育成 : その研修の実際. 大学図書館研究. 2004, no. 71, p. 11-16.
- 71) 渡邊由紀子. 大学図書館における電子リソース・サービスの推進 : 九州大学附属図書館のコンテンツ整備・きゅうとサービス・組織再編. 情報管理. 2007, vol. 50, no. 6, p. 343-353.

- 72) 甲斐重武. 国立大学におけるコンソーシアムの活動の胎動 : 九州地区におけるデータベース Web of Science の共同利用実験を例にして. 大学図書館研究. 1999, no. 55, p. 7-16.
- 73) 加藤信哉. 大学図書館と電子ブック. カレントアウェアネス. 2007, no. 294, p. 27-29.
- 74) 若生政江, 井村邦博. 図書館システムにおける電子ジャーナルの一元管理 : E-Cats Library を利用した城西大学の事例. 薬学図書館. 2006, vol. 51, no. 2, p. 153-158.
- 75) 甲斐重武. 電子ジャーナル利用支援システムの共同利用実験. 九州地区大学図書館協議会誌. 2002, no. 45, p. 6-9.
- 76) 片岡真. リンクリゾルバが変える学術ポータル : 九州大学附属図書館「きゅうと LinQ」の取り組み. 情報の科学と技術. 2006, vol. 56, no. 1, p. 32-37.
- 77) 星子奈美. 電子的サービス「きゅうとサービス」の広報計画. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2006, vol. 2005/2006, p. 41-43.
- 78) Hood, A., Howard, M. Adding value to the catalog in an open access world. Serials Librarian. 2006, vol. 50, no. 3-4, p. 249-252.
- 79) 片岡真. EJ 等のリンク機能の応用事例 : リンク・リゾルバーの効き目. 大学の図書館. 2005, vol. 24, no. 8, p. 161-164.
- 80) 片岡真. リンクリゾルバに見る Web 時代の図書館サービス : きゅうと LinQ の評価と展望. 薬学図書館. 2006, vol. 51, no. 4, p. 299-306.
- 81) 片岡真. Google Scholar, Windows Live Academic Search と図書館の役割. カレントアウェアネス. 2006, no. 289, p. 19-22.
- 82) 北條充敏. 岡山大学における学術情報基盤形成と Serials Solutions 社製品の活用. 医学図書館. 2005, vol. 52, no. 3, p. 237-243.

- 83) 宇陀則彦. 電子図書館の質的評価. 情報の科学と技術. 2007, vol. 57, no. 8, p. 390-395.
- 84) 村田泰子. 日本医科大学図書館における電子ジャーナルの管理と提供 : Serials Solutions サービスを導入して. 医学図書館. 2008, vol. 55, no. 1, p. 40-45.
- 85) 吉新裕昭, 渡部計輝. 獨協医科大学図書館におけるリンクリゾルバの計画から導入まで. 医学図書館. 2007, vol. 54, no. 2, p. 132-137.
- 86) 伊藤民雄. オープンアクセスコンテンツを活用する電子リソース検索 : 実践女子大学図書館が提供する OPAC と横断検索. 情報管理. 2008, vol. 51, no. 3, p. 174-183.
- 87) 工藤絵理子, 片岡真. 次世代 OPAC の可能性 : その特徴と導入への課題. 情報管理. 2008, vol. 51, no. 7, p. 480-498.
- 88) 久保山健. 次世代 OPAC を巡る動向 : その機能と日本での展開. 情報の科学と技術. 2008, vol. 58, no. 12, p. 602-609.
- 89) 宇陀則彦. 利用者中心の設計 : 次世代 OPAC の登場. 図書館雑誌. 2009, vol. 103, no. 6, p. 390-392.
- 90) 国立情報学研究所. "電子情報資源管理システム(ERMS)実証実験 平成 19 年度報告書(平成 20 年 3 月)".
http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/pdf/erms_report_h19.pdf, (参照 2009-08-31).
- 91) 国立情報学研究所. "電子情報資源管理システム(ERMS)実証実験 平成 20 年度報告書(平成 21 年 3 月)".
http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/pdf/erms_report_h20.pdf, (参照 2009-08-31).

- 92) 片岡真, 轟朋子. ERM システム導入で変わる e リソースサービス : 平成 19 年度「電子情報資源管理システム (ERMS) 実証実験」参加報告. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2008, vol. 2007/2008, p. 27-35.
- 93) 福島真紀. Serials Solutions を導入して : 福岡大学図書館における電子ジャーナルポータルサービスとその管理. オンライン検索. 2008, vol. 29, no. 1/2, p. 3-10.
- 94) 前坂祥子. リンクリゾルバと統合検索による新たな学術情報提供モデルの展開 : 山口大学図書館における取り組み. 医学図書館. 2008, vol. 55, no. 3, p. 235-239.
- 95) 富岡達治. 外国雑誌「初任者」のための基礎知識. 情報の科学と技術. 2009, vol. 59, no. 6, p. 256-261.
- 96) 土屋俊. 学術情報流通の最新の動向 : 学術雑誌価格と電子ジャーナルの悩ましい将来. 現代の図書館. 2004, vol. 42, no. 1, p. 3-30.
- 97) 岩崎治郎. 電子ジャーナルの価格体系・契約形態の変遷と現在. 情報管理. 2005, vol. 47, no. 11, p. 733-738.
- 98) 川村俊之, 山田尚. 電子ジャーナルの普及による雑誌購読モデルへの影響. 情報の科学と技術. 2009, vol. 59, no. 6, p. 262-267.
- 99) 尾城孝一. 電子情報資源管理システム : DLF/ERMI の取り組みを中心として. 情報管理. 2004, vol. 47, no. 8, p. 519-527.
- 100) 伊藤裕之. 電子情報資源管理システム (ERMS). 情報の科学と技術. 2005, vol. 55, no. 6, p. 271-275.
- 101) 衣笠美穂. 電子リソース契約情報管理ツール Electronic Resource Management System (ERMS) by Serials Solutions. 情報管理. 2006, vol. 49, no. 2, p. 91-94.
- 102) Grogg, J. E. Investing in digital. Library Journal. 2007, vol. 132, no. 9, p. 30-33.

- 103) 増田豊. ERMS とリンクリゾルバーによる電子ジャーナル業務支援. 情報の科学と技術. 2009, vol. 59, no. 6, p. 268-274.
- 104) 加本純夫, 福山栄作. 島根大学における電子ジャーナルを中心とした学術情報基盤整備計画(2001-2003): 電子ジャーナル群の導入経過, 利用支援システム, 今後の課題. 大学図書館研究. 2003, no. 68, p. 26-36.
- 105) 甲斐重武, 鈴木秀樹. 国立大学法人化 3 年目の現在. 図書館雑誌. 2006, vol. 100, no. 10, p. 674-676.
- 106) 土屋俊. COUNTER プロジェクト: 序論. 情報管理. 2004, vol. 47, no. 4, p. 242-244.
- 107) 加藤信哉. 電子情報資源の利用統計: COUNTER プロジェクトと実務コードを中心に. 情報の科学と技術. 2004, vol. 54, no. 4, p. 168-175.
- 108) Shepherd, P. T. COUNTER プロジェクト: オンライン利用統計の国際基準の設定. 情報管理. 2004, vol. 47, no. 4, p. 245-257.
- 109) Shepherd, P. T. COUNTER: Usage statistics for performance measurement. Performance Measurement and Metrics. 2006, vol. 7, no. 3, p. 142-152.
- 110) 加藤信哉. COUNTER について. 薬学図書館. 2007, vol. 52, no. 3, p. 258-269.
- 111) 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース. "大学における電子ジャーナルの利用の現状と将来に関する調査—結果報告書—(2001 年 12 月)".
http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/publications/ej/2001_report.pdf, (参照 2009-08-31).
- 112) 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース. "大学における電子ジャーナルの利用の現状と将来に関する調査—結果報告書—(2003 年 12 月)".
http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/publications/ej/2003_report.pdf, (参照 2009-08-31).

- 113) 学術図書館研究委員会(SCREAL). "学術情報の取得動向と電子ジャーナルの利用度に関する調査(電子ジャーナル等の利用動向に関する調査 2007)".
http://www.screal.org/apache2-default/Publications/SCREAL_REPORT_jpn8.pdf, (参照 2009-08-31).
- 114) Robertson, V. 電子ジャーナルが大学図書館に及ぼす影響：雑誌部門，収書部門および相互貸借部門の役割と機能の変化. オンライン検索. 2003, vol. 24, no. 3/4, p. 155-163.
- 115) 加藤信哉. 電子ジャーナルのコンソーシアム利用が大学図書館の文献デリバリーへ及ぼす影響. カレントアウェアネス. 2004, no. 281, p. 3-5.
- 116) 米田奈穂ほか. ビッグ・ディール後の ILL：千葉大学附属図書館亥鼻分館における調査. 大学図書館研究. 2006, no. 76, p. 74-81.
- 117) 酒井由紀子，園原麻里. ILL 統計データ分析からみた医学文献流通における私大医学図書館の役割. 医学図書館. 2006, vol. 53, no. 3, p. 233-238.
- 118) Tutiya, S. et al. ILL/DD in Japan across the turn of the century : basic findings about NACSIS-ILL from 1994 to 2005. Progress in informatics : PI. 2007, no. 4, p. 29-49.
- 119) 佐藤義則. "大学図書館を中心とする ILL と文献需要の動向". 電子情報環境下における大学図書館機能の再検討. 千葉, 千葉大学, 2007, p. 8-18.
- 120) 三根慎二. 研究者の電子ジャーナル利用：1990年代半ばからの動向. Library and information science. 2004, no. 51, p. 17-39.
- 121) Kato, S. Impact of Online Journals on Medical School Libraries. オンライン検索. 2004, vol. 25, no. 1/2, p. 14-23.
- 122) 甲斐重武ほか. 九州大学附属図書館の My Library. 大学図書館研究. 2005, no. 75, p. 13-17.

- 123) 轟朋子. リモートアクセスサービス「どこでもきゅうと」のサービスインに向けて. 九州大学
附属図書館研究開発室年報. 2008, vol. 2007/2008, p. 23-26.
- 124) 岡野真一郎. EBSCO A-to-Z のご紹介. オンライン検索. 2005, vol. 26, no. 3, p.
87-95.
- 125) 石定泰典. 新しい電子ジャーナル管理について：リンクリゾルバーの導入事例報告.
薬学図書館. 2009, vol. 54, no. 1, p. 24-31.
- 126) 大学図書館問題研究会. 討議資料 大学図書館をめぐる動き (大学図書館問題研究会
第 39 回全国大会開催要綱). 大学の図書館. 2008, vol. 27, no. 6, p. 104-119.
- 127) 大学図書館問題研究会. 課題別分科会 (大学図書館問題研究会第 39 回全国大会記
録). 大学の図書館. 2008, vol. 27, no. 12, p. 239-245.
- 128) 国立大学法人評価委員会. "国立大学法人九州大学の平成 20 年度に係る業務の実績
に関する評価結果(平成 21 年 11 月 6 日)".
<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/hyoka-home/tyuki/pdf/H20kekka.pdf>, (参照
2009-11-10).
- 129) 国立大学図書館協会人材委員会. "大学図書館が求める人材像について：大学図書
館職員のコンピテンシー(検討資料)(平成 19 年 3 月)".
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/hr/jinzaizo1903.pdf>, (参照 2009-08-31).
- 130) 有川節夫. 図書館が変われば大学は変わる. 国立大学図書館協議会ニュース. 2003,
no. 70, p. 16-26.
- 131) 有川節夫. 費用対効果を重視した図書館経営のあり方 (平成 14 年度金沢大学附属図
書館シンポジウム「これからの大学図書館のあり方：図書館の位置づけ, 図書館経営,
生涯学習社会」). こだま (金沢大学附属図書館報). 2003, no. 148, p. 6-9.
- 132) 有川節夫. 附属図書館の目標と当面の課題. 図書館情報(九州大学附属図書館).
2001, vol. 36, no. 4, p. 55-59.

- 133) 兵藤健志ほか. 図書館における Web アプリケーション開発と人材育成について. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2008, vol. 2007/2008, p. 1-7.
- 134) 吉松直美ほか. 機関リポジトリ担当者の人材育成について : CSI 委託事業「持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造」講習会報告. 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2009, vol. 2008/2009, p. 34-39.
- 135) 渡邊由紀子. 図書館職員と教官による共同研修 : 九州大学附属図書館「ラテン語古刊本書誌作成研修会」(第 46 回国立大学図書館協議会総会研究集会事例発表). 国立大学図書館協議会ニュース資料. 2000, no. 61, p. 48-51.
- 136) 山田律子ほか. 大学図書館における職員研修の一例 : 九州大学附属図書館ラテン語古刊本書誌作成研修会. 大学図書館研究. 2002, no. 66, p. 1-11.
- 137) 渡邊由紀子. タイトルページを読む楽しみ : 九州大学附属図書館「ラテン語古刊本書誌作成研修会」の活動から. 一橋大学社会科学古典資料センター年報. 2008, no. 28, p. 11-25.
- 138) Joint Steering Committee for Revision of AACR. Anglo-American cataloguing rules. 2nd ed., 1998 rev. Chicago, American Library Association, 1998, 676p.
- 139) 九州大学附属図書館. 第 31 回中央図書館貴重文物展覧目録ー「ローマ法大全」関係図書ー. 大学広報(九州大学). 1990, no. 715, p. 1-11.
- 140) 九州大学附属図書館. Catalogue de la collection de Charles Perrat (シャルル・ペラ文庫目録). Fukuoka, Japon, Université du Kyushu, Bibliothèque centrale, 1981, xiv, 358p.
- 141) 九州大学附属図書館. Katalog der Bibliothek von Wolfgang Kunkel (ヴォルフガング・クンケル文庫目録). Fukuoka, Japan, Kyushu University Library, 1988, xiv, 660p.

- 142) 九州大学附属図書館. 第 32 中央図書館貴重文物展観目録－「トマス・アクィナス」関係
図書－. 大学広報(九州大学). 1992, no. 758, p. 1-6.
- 143) 九州大学附属図書館ラテン語古刊本書誌作成研修会. タイトルページを読む楽しみ：
図書館ラテン語入門. 福岡, 九州大学附属図書館, 2001, 105p.
- 144) 九州大学附属図書館. "グロティウス「戦争と平和の法」初版(1625 年刊)".
<http://herakles.lib.kyushu-u.ac.jp/grotius/top.htm>, (参照 2009-08-31).
- 145) University of Barcelona. "Printers' Devices".
<http://web.uflib.ufl.edu/SPEC/rarebook/devices/device.htm>, (参照 2009-08-31).
- 146) Cicero. De oratore, book III ; De fato ; Paradoxa stoicorum ; De partitione
oratoria. Cambridge, Mass., Harvard University Press, 1942, 437p. (The Loeb
classical library ; 349. Cicero : in twenty-eight volumes ; 4).
- 147) 鹿野治助(責任編集). キケロ ; エピクテトス ; マルクス・アウレリウス. 東京, 中央公論
社, 1968, 574p. (世界の名著 ; 13).
- 148) Reeves, J. S. The First Edition of Grotius' De Jure Belli Ac Pacis, 1625. The
American Journal of International Law. 1925, vol. 19, no. 1, p. 12-22.
- 149) Rogge, H. C. Hugonis Grotii operum descriptio bibliographica in qua omnes
editiones et versiones, argumenti ratione habita, secundum temporis ordinem
recensentur. Hagae Comitum, Apud Martinum Nijhoff, 1883, 76p.
- 150) Meulen, J. ter, Diermanse, P. J. J. Bibliographie des écrits imprimés de Hugo
Grotius. La Haye, M. Nijhoff, 1950, xxiv, 708p.
- 151) 二宮素子. フランス絶対王政下の書物と検閲. 国立, 一橋大学社会科学古典資料セン
ター, 1982, 25p. (一橋大学社会科学古典資料センターStudy series ; no. 2).

- 152) Febvre, L., Martin, H. J. 書物の出現. 東京, 筑摩書房, 1998, 2冊. (ちくま学芸文庫).
- 153) Blasselle, B. 本の歴史. 大阪, 創元社, 1998, 182p. (「知の再発見」双書 ; 80).
- 154) Reeves, J. S. Grotius, de Jure Belli ac Pacis : a bibliographical account. The American Journal of International Law. 1925, vol. 19, no. 2, p. 251-262.
- 155) 渡邊由紀子. 「英国三大図書館」における資料保存対策 : 海外研修報告. 図書館情報(九州大学附属図書館). 1997, vol. 32, no. 7, p. 30-31.
- 156) 渡邊由紀子. 海外大学図書館等視察報告 第1集 連合王国. 福岡, 九州大学附属図書館, 1997, 28p.
- 157) 渡邊由紀子. 1998年度全国図書館大会資料保存分科会を振り返って : 資料保存分科会参加記. ネットワーク資料保存. 1999, no. 54, p. 6-7.
- 158) 藤原愛子. 国会図書館第6回資料保存研修会に参加して. ネットワーク資料保存. 2003, no. 71, p. 3-4.
- 159) 山田律子. 西洋古刊本の修復 : 事例報告. 大学図書館研究. 1998, no. 54, p. 76-82.
- 160) 栗山平. 一大学図書館での資料保存研修活動と今後. ネットワーク資料保存. 2003, no. 71, p. 1-3.
- 161) 九州大学附属図書館. "17-18世紀国際法史・国制史コレクション".
http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/hp_db_f/deutsch/index.htm, (参照 2009-08-31).
- 162) 渡邊由紀子. 平成16年度国立大学図書館協会賞受賞謝辞. 図書館情報(九州大学附属図書館). 2004, vol. 40, no. 2, p. 27-28.
- 163) 国立大学図書館協会. "平成16年度国立大学図書館協会賞審査結果報告".
http://wwwsoc.nii.ac.jp/janul/j/operations/award/shinsa_16.pdf, (参照 2009-08-31).

- 164) 山根泰志. 忘れられた文庫たち : 中央図書館所蔵幕末明治期漢学者旧蔵書群. 九州
大学附属図書館研究開発室年報. 2009, vol. 2008/2009, p. 27-30.